物流改善の新潮流 112

段ボール駆使 梱包効率化

木材・樹脂代替――環境配慮

モスト技研

「物流革新に挑戦」を基本方針に掲げるモスト技研（埼玉県日高市、見崎秀行社長、042・984・1355）。さまざまな段ボールを駆使し、輸送用梱包（こんぽう）材の小型軽量化や省力化、環境対応など、多様な提案で顧客の物流効率化に貢献している。

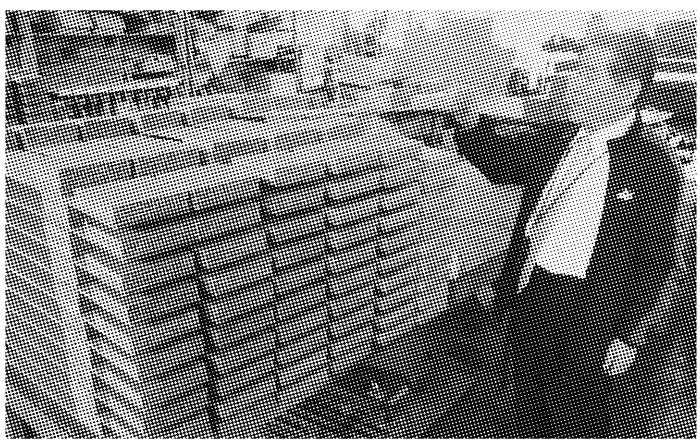
例えば緩衝材やパレットなどに樹脂や木材など他素材を使っていたのを、段ボールに切り替えることで「分別作業がいらなくなる。全量リサイクルに回せて環境にも優しい」（見崎社長）といったメリットが生まれる。「素材から製品に合わせた設計、加工、販売までを一貫して行っている」（同）ことを強みに、荷物の積載効率をいかに上げるかをユーザーへ丁寧に提案する。

武器となるのが、特殊強化段ボール。米国の老舗ブランド「トライウォールパック」と、王子インターパック（東京都中央区）の「ハイプルエース」の両素材を取り扱う。いずれも特殊な加工機がなければ加工できない頑丈な高級素材。特にハイプルエースは「国内では50社程度しか扱っていない。埼玉県内では当社のみ」という貴重な素材だ。

特殊強化段ボールの最大の標的となるのが、重量のある工業製品の長期輸送に使う木箱だ。「職人が木にくぎを打って組み上げる作業を、段ボールにすることで、パート社員でも組み立てられるようになる」ため、人件費削減や作業時間の短縮につながる。さらに「梱包サイズが木箱より小さくなり、トラックの荷台に2列で載せることが可能になった」事例もあったそうだ。荷物を下部で支えるパレットも「200キログラムまでなら段ボールで支えられる」ため、すべて紙だけでの梱包輸送も可能になる。

最も気を使うのが、湿気やぬかるみへの対策。やはり紙は水分に弱い。「途上国は道路事情が悪く、水たまりも多い。そこに現地の人は平気でモノを置く」ことも。対策として、溶けたロウにパレットの足の部分を浸して固め、はっ水性を高めたこともあるそうだ。

（川越支局長・大橋修）



特殊強化段ボールで、重量物を載せて運ぶためのパレットも製造できる

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社